

## 10年後、20年後に現在の半分の仕事はなくなるのか？(2)

オズボーン准教授の『雇用の未来』でいわれているように、近い将来日本で半分の職業、仕事はなくなるのでしょうか。洋服屋や靴屋を例にとって考えてみましょう。

背広や革靴が日本に入って広まっていくのは明治時代です。徴兵制度の影響を受け、男性は軍服、革靴を経験することになりましたが、背広や革靴は一般化されませんでした。大正時代に大学卒業して民間企業で背広、革靴を着用して働く人々を「サラリーマン」と称するようになって、背広や革靴が一般化していきました。革靴では軍靴のような既製品もありましたが、背広や革靴はオーダーメイドで作ってもらうのが主流でした。しかしそれでも、日本の技術力や住宅環境を考えると、日常の着る物には和服、履く物には草履、下駄などが利用されていました。

1954年～1973年にかけての高度経済成長期に、日本は平均10%程度の実質経済成長率を記録しました。第2次世界大戦後、アメリカ軍を中心とした進駐軍の影響で日本では、背広や革靴が一般化していきます。1957年の立教大学時代の長島茂雄選手(後の巨人軍選手、監督)の巨人軍入団発表時は学生服で会見を行っています。また、当時の大学生は学生服を着用して入社試験を受けていました。仕立ての洋服屋、仕立ての靴屋が一般的でした。しかし、急激な経済成長、工業化によって背広に関しては既製品、イージーオーダーが登場して普及、革靴でも既製品が普及していきました。1960年頃には「将来、洋服屋と靴屋はなくなる」といわれることがありました。しかし、いま現在はどうでしょうか。確かに、仕立ての洋服屋や靴屋の数は減りましたが、なくなっているわけではありません。逆にオーダーの洋服や靴は高級品としての地位を築いています。また、やはり1950年代後半に電化製品の「三種の神器」の一つといわれたテレビが普及し、映画館はなくなるといわれていましたが、現在でも映画館は存在します。

AIやロボットによって私達の仕事が奪われるのでしょうか。確かに、職業、仕事はなくなるということは非常にセンセーショナルなことに捉えられます。しかし、あの論文に関する対談でアデコ(株)代表取締役社長川崎氏が「雇用が奪われるのではないか」という質問に対して、オズボーン准教授は「将来を予測することは大変難しく、どのような視点から見ても確実な未来として示

されるものは、むしろ間違っただけの予測といえるでしょう。・・・(略)・・・テクノロジーによってどれだけの仕事が自動化され、失われるかを考えることは重要です。しかし同時に、テクノロジーがどのように需要を掘り起こし、どのような仕事を創造するのかという視点も同じく重要だと思っています。」と答えています。(対談 マイケル・オズボーン准教授×川崎健一郎)

オズボーン准教授は、自ら示したものは確実な予測ではなく、将来を予測することは難しいと述べています。そしてテクノロジーによって新たな仕事が生まれると述べています。また、オズボーン准教授によれば、AIやロボットは芸術などのクリエイティブな作業には向いていないので、人間はいままでより高次でクリエイティブな仕事に就けばよいと述べています。しかし、皆がみなクリエイティブな仕事をするのでしょうか？難しいと思っています。生徒一人ひとりが、将来的に仕事に就けるような芸術的な感覚や芸術的な能力を持ちあわせているとは思えないからです。

AIやロボット化されない仕事、職種は残ると考えられます。クリエイティブな仕事だけでなく、協調性や非定型な業務についても、人間が担当することになると予測されています。オズボーン准教授、フレイ研究員と共同研究した野村総合研究所がリリースした『日本の労働人の49%が人工知能やロボット等で代替可能に』には、AIやロボット等による代替可能性が低い100種の職業が具体的に記されています。例えば、アナウンサー、犬訓練士、映画監督、観光バスガイド、外科医、作詞家、産業カウンセラー、歯科医、商品開発員、スポーツインストラクター、中学校教員、評論家、漫画家、特別支援学校教員、保育士、レストラン支配人などが記されています。

代替可能性の高い仕事でも生き残る人はいます。先に記した仕立ての洋服屋や靴屋のように、本当に他人や機械等では真似できない技術・技能を持っている職人は、その仕事を続けていける可能性は高いと思います。また、資格の時代といわれ、多くの分野の資格が存在し、数え切れないほどの資格保持者がいます。しかし、供給過剰になっている資格が少なからずあります。弁護士、司法書士、税理士、公認会計士、調理師、美容師など、供給過剰になっているといわれています。また、歯科医師はAIやロボット等による代替可能性が低い仕事といわれていますが、横浜のJR鶴見駅西口に面している豊岡通りでは、コンビニエンスストアの数より歯医者の方が多いといわれています。真偽は分かりませんが、確かに歩いてみると歯科医院の数が目に付きます。

資格だけで生きていける時代ではありません。大切なことは、どんな時代にも対応できる力=生きる力が必要とされているのです。アクティブラーニングの学習が叫ばれるのは、そのためです。代替可能性の高い仕事でも優秀な職業人になれば食べていけるのではないのでしょうか。頑張りましょう！